



# 保健体育(小) 実技・理論 研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>「わかるできるサッカーの指導方法」 ～低学年から高学年まで活用できるサッカーの指導方法」</p>	
<p>日時</p>	<p>令和 5 年 7 月 7 日(金)</p>	
<p>会場</p>	<p>北広島市総合体育館</p>	
<p>講師</p>	<p>吉田 順省 氏 (肩書:)エスポラーダ北海道 スポーツダイレクター・CPO</p>	
<p>参加者</p>	<p>約 45 名</p>	
<p>研修会 の 様子</p>		<p>○ウォーミングアップ 周りの人にぶつからないようにドリブルをしながら、指示を聞いて止まる活動。指示は、「言った場所でボールを触って止まる。」ということ。だるまさんが転んだなどのゲーム性を取り入れて楽しみながら、ボールの扱いにも慣れるような活動だった。「ドリブルはボールを蹴るのではなく、ボールを押し」という言葉が印象的だった。</p>
		<p>○シュートゲーム 4チームに分かれてのシュート練習。前の人がゴールを決めたら、ボールを設置して次の人へバントタッチする。待っている人の声掛け、応援など、ボールを触っていない人の対応も考えられていた。</p>
		<p>○ドリブルゲーム 1列になったチームメンバーの間を縫って、ジグザグにドリブルをしていく。列が足りなくなならないように、ドリブルをする人が自分のところを抜けていったら、列の後ろにつながっていく。運動量も確保しつつ、チームで協力して取り組めた。ドリブルが上手な人は、利き足と逆の足でドリブルをするなど、しぼりを設けることなど、発展も教えていただいた。</p>
		<p>○ゲーム 最後はチームごとにゲームを行った。審判も飛び入り参加するなど、楽しむことが重視された活動だった。</p>